

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	976	学力フォローアップ推進事業	会計	01	一般会計
基本施策	31	個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	款	10	教育費
担当部課名	教育部 学校教育課		項	01	教育総務費
作成者氏名	加納 圭子	連絡先	目	03	義務教育振興費
			細目	102	児童生徒指導経費
			細々目	19	学力フォローアップ推進事業

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を) 市内全小中学校児童生徒	成果(どうなるのか) 標準学力検査を実施し、その結果を分析することで分かる授業づくりに努力し、学力向上につながります。		
本年度事業内容	1. 小学校4・5・6年生児童、中学校1・2年生で到達度診断調査(標準学力検査)の実施 小学校4・5年生 国語・算数 中学校1・2年生 国語・数学・英語(2年生のみ) 2. 伊賀市学力向上プロジェクト委員会の開催 3. 各小中学校において結果の分析			
開始年度	平成 16 年度	終了年度	平成 年度	根拠法令・要綱等

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.16	0.14	0.14
	人件費合計(A)	1,152	1,008	1,008
②支出内訳(千円)	事業費(B)	3,000	3,290	3,222
	委託料			
	需用費	3,000	3,290	3,222
	その他			
合計(A+B)		4,152	4,298	4,230
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国庫支出金	1,000	1,096	1,074
	地方債			
	受益者負担			
一般財源		3,152	3,202	3,156
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
学力検査実施校数	校	38	38	38			
学力向上プロジェクト委員会開催回数	回	3	3	3			
学力検査結果分析実施校数	校	38	38	38			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
学力検査において、全国平均を100として、市内小学校の2科目の平均	各学校の各学年、各教科においては、前年度より平均点を何点上げることができたかということを目指して取り組んでいますが、市全体としては、市の平均点がどの教科も全国平均を上回ることを指標としたいと思います。		100 目標 (100)	102	105
学力検査において、全国平均を100として、市内中学校の3科目の平均	各学校の各学年、各教科においては、前年度より平均点を何点上げることができたかということを目指して取り組んでいますが、市全体としては、市の平均点がどの教科も全国平均を上回ることを指標としたいと思います。		101 目標 (100)	103	105

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

市内各小中学校においては、特色ある学校教育を推進しつつ、各教科や総合的な学習の時間に「生きる力」を育成するとともに、児童生徒一人一人に確かな学力をつける取り組みを進めています。「学力」というのは、単に知識の量のみでなく、学ぶ力や思考力、判断力も含めた力ですが、これらの力をつけるため、各学校では、指導方法の改善や個に応じた指導に努めているところです。そこで、児童生徒の学力状況を把握する必要があることから、学力検査を全市的に実施し、その結果分析を行い、それを基に指導方法、評価方法等の改善や個に応じた指導の導入等、その後の指導に反映しています。今後も継続して取り組みたいと思います。

評価	必要性	4	伊賀市内小中学校の児童生徒の学力実態の特徴的な傾向を把握することができ、その結果分析において、各学校において指導や評価の方法と教材の工夫など、「わかる授業」を目指していく必要を十分受け止めています。特に、平成17年度の結果から、算数・数学の定着・向上を目指す必要があります。今後も、学力検査を実施し、指導方法の改善につなげていきたいと考えています。	総合評価 A
	有効性	4		
	達成度	3		
	効率性	4		